

大阪の 社会福祉

2020.10

785

The social welfare
in OSAKA

- 新コーナー「コロナの中で」
都島区 地域の思いから立ち上げた
「中野見守りネットワーク」
平野区 The 男組講演会
オンラインでも伝わる！地域で輝く男たちの魅力
市社協 オンラインでもこんな風につながる！
「ウエルおおさか」に特集記事を掲載
旭区 マタニティカフェ・ママからの発信
「子育てはお腹の中から」本を発売！
市社協 計画評価と情勢変化を踏まえて「次期計画」策定へ
こんなことやっています！私たちの施設から
社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホーム「こうのとり」
すべての人が「あふれる笑顔」になあれ
- 8 7 6 5 4 3 2



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>

今月の
コロナの中で

◆コーナー第1弾として、住之江区新北島地域 食事サービス委員長の佐藤慎子さん（右）のお話を掲載。インタビューには、見守りあつたかネットコーディネーター（ネットワーク推進員）の中山久美子さん（左）も同席し、これまでの歩みとコロナ禍での取り組みをお聞きました。（2面に掲載）

新型コロナウイルス感染症の影響により、集まりづらい状況もあるが、人と人とのつながりが途絶えないよう、さまざまな方法で工夫した取り組みが進められている。

市社協
区社協

つながりの選択肢を
広げよう

今号は、新コーナー「コロナの中で」（2面）のほか、コロナ禍での見守り活動についての話し合いの場（3面）、オンラインを活用した取り組み（4面）（5面）などを紹介する。



▶食事サービス運営ボランティアのみなさん（2017年6月に撮影）

HB

検査を受けた病院から、その夕方に電話がかかってきた。すぐに手術をする必要

があるというのだ。▼かかっている病院も大きな総合病院だが、そこではできないので、専門医のいる病院を手配したから、明日そこへ入院の用意をしていくようにと言う。▼妻には大した自覚症状もなく、用心のために受けた診察が、一気に緊迫したものになった。コロナのせいで、手術の前にPCR検査をし、結果が出るまで個室入院。▼妻がいない夜、自宅で一人で摂った夕食の味もわからず、酒だけが進む。これでは耐えられないと、翌日から娘の家に寄宿。孫と一緒に食事をし、風呂に入っ

てやっと落ち着いた▼そして、手術前夜の医師の説明。必ずしも安全ではありませんとか、後遺症の残る可能性がありま

すとか、聞きたくもない言葉を並べられた。さらに2日にわたる手術当日、待機してくださいと言われて、待っている時間の長かったこと▼手術は成功し、生きて帰ってきた妻の顔を見たが、言葉は何も出てこなかった。世話をしてくれた看護師にそんな気持ち

を語ったら、冷たく「男はだめですね」といわれて、余計沈んでしまった。（石）

コロナの中で

このコーナーでは

新型コロナウイルスの影響下において地域福祉に関わるさまざまな「人」に焦点を当てて、インタビューを通して、その人ならではのストーリーや思いに迫ります。

子育てが落ち着き 食事サービスの世界へ

40代後半、子育ても落ち着き、ボランティアに関心を向け始めた佐藤榎子さん。ネットワーク推進員として活動す



住之江区新北島地域高齢者食事サービス委員会

委員長 佐藤榎子さん

プロフィール：平成3年、初代ネットワーク推進員に就任。平成5年に新北島地域で食事サービス委員会を立ち上げた。このほか、民謡を楽しむ会、麻雀教室、ディスコン等、さまざまな居場所づくりに携わる。

る傍ら、近隣地域の食事サービスを手伝える機会があり、感銘を受けたことが現在の活動を始めるきっかけとなった。

「日々の食事や調理が難しい高齢者世帯へ弁当を届けるために、こんなにたくさんの方が一斉に動いている、その光景は圧巻でした」

佐藤さんは、平成5年、約30人で新北島地域の食事サービス委員会を発足し、以来28年間、委員長を続けている。同会では、自宅へ弁当を届ける月2回の「配食」と、集会所に集まり一緒に食事をする月1回の「会食」を実施しているが、新型コロナウイルス感染

症の流行に直面した。「特に残念だったのは4月のお花見会が中止になったこと。地域が一体感を得られる一大イベントで、私たちも手づくり花見弁当を食べてもらうことが喜びでした」



会館横の公園でお花見会(2019年4月に撮影)

いつもどおり、いねいに待っている人に届けたい

地域によっては、すべての食事サービスを中止するところもあった。しかし、佐藤さんは、迷うことなく、配食サービスだけは継続する方向で舵を切る。

「配食は、会食と違い、マスクや手洗いなど、いつもどおり気をつけられ続けられると考えました。足腰が不自由な人は、買い物が困難です

“食事”を通してつながり続ける -28年間の経験を活かして-



笑顔とともに弁当をお届け

「マスクなどの感染防止等をしていけば、近所の人も話せるし、つながり続けることができるはず。閉じこもらないように各所で声をかけていきたいと思っています」

し、一人暮らしの方は自粛中、話し相手がいません。顔見知りの私たちが一食でも届けたら、という思いでした」業者のお弁当に季節のイラストを添えた次回の案内を入れるなど、高齢者の孤独感をやわらげ、ホッとしていただける工夫をしている。会館に來られる人は、直接足を運んで受け渡し。利用者は、みな「雑談できるだけでもうれし」と喜んでくれたそう。7月。4カ月ぶりの食事サービス委員会には役員12人全員が集合し、今後に向けて協議。各自が得た情報や意見を交換すると、話し出したら止まらなかったとか。

時も、猛暑の中、役員で手分けして一軒ずつに届け、安否確認やこれからの活動を考える有効な情報を収集することができた。

高まる会食再開への期待
もう少しか待てば

スーパーに行くたびに利用者に会うと、「会食がなくてさみしいわあ」「いつから？」と声を掛けられる。

「やっぱり会食がしたくて『大阪の社会福祉』で他区の記事も見ながら、どうすればいいかをずっと考えています。会食だけ利用していた人もいるので、ひとまず10月から、月1回の会食だった日を配食にして様子をみたいと思っています」

佐藤さんには、親しみやすい笑顔で人の心に届け込む力と、28年間で培ってきた協力関係と信頼感がある。そうした素地が、コロナ禍にも必要要素の的確な判断を生んでいるのだらう。

「マスクなどの感染防止等をしていけば、近所の人も話せるし、つながり続けることができるはず。閉じこもらないように各所で声をかけていきたいと思っています」

地域の思いから立ち上げた 「中野見守りネットワーク」

孤立死をなくすために
みんなで考える

都島区中野地域では、平成30年4月に地域内で死後数カ月発

見されなかった孤立死の事案があった。これを重く受け止め、「孤立死をなくしていくために、町会もマンションも一緒にみんなで地域のことを考えていこう！」と役員が中心となり都島区社協見守り相談室とともに見守り座談会や連絡会を積み重ねてきた。

「これまでの輪番制の組織では限界がある。見守り活動を継続できる新たな組織が必要」と中野地域社協・前会長の吉田昭男さん。自身の活動経験も生かし、令和2年3月に「中野見守りネットワーク」を立ち上げた。

こんな時だからこそ
話し合う場を

しかし、その頃から、新型コロナウイルスが猛威を振るい、緊急事態宣言等、活動がなかなか



密にならずに集合写真



各班に分かれ気になる方を中心に情報を共有しマッピング

か進みにくい状況に。地域内の役員改選等で協力してくれていた町会長もほとんど変わり、半年近くの月日が流れた。

「こんな時だからこそ話し合う機会を作っていかなければ！せっかく、この活動を理解し協力してくれる人たちの思いを無駄にしたくない！」

8月28日(金) 夜7時、都島区民ホールに46人が集う。コロナ禍ではあるが地域での関心の高さが伺えた。

中野地域社協の吉岡利和会長は「2025年問題を地域として乗り切っていくには、私たち自身が取り組む見守り活動が重要なカギとも言えます。皆さんと一緒にこの活動を積極的にすすめていきましょう」と挨拶。

第一部は、見守り相談室からスライドを投影して、これまでの活動の振り返りと見守り事業の

あたたかいまち みやこじま

みまのめ

みんなの思いがつまったロゴ

説明。第二部は、各町会(10町会)5人程度に分かれて、地図を広げて要援護者の情報をもとに地図に印をつけた。区地域包括支援センターの職員・地域支援担当の職員等も各々グループに入り、気になる方の情報共有を中心に話し合いをおこなった。密な状況避けるため、ホールの他、会議室にも分かれた。

地域の思いを

区社協一丸となつて

サポート

話し合いの中では、「引きこもりがちな息子さんがいる」「見守り相談室からの名簿にはないけれど、気になる人は名簿に載せて見守ってほしい」という声も出てきた。また、「亡くなった方の相方さんが心配」等の声が聞かれる。

最後に、区社協の職員が各グループのまとめを発表し、8時半に連絡会は終了となった。

区社協・見守り相談室の川原佳代主査は、「中野地域の役員の方々は、孤立死を自分ごとととらえ、話し合いを続けてもらっています。忙しい方が多い中、見守り活動についてだけ話し合う時間を丁寧に確保し、実践する。この地道な努力が、地域の新しい組織の結成につながってこれた」と感じます。これから区社協が一丸となってサポートしていききたい」と語った。

The 男組 講演会

オンラインでも伝わる！ 地域で輝く男たちの魅力

平野区で活動する「The 男組」は、広島県の福山市社協が主催する「輝くための男たちの塾」で事例発表をしてほしいと依頼を受けた。当初は福山市に向く計画だったが、新型コロナウイルスの影響により、当日は平野区在宅サービスセンターにパソコン等の機器をセッティング。WEB会議システムを利用することとなり、9月4日、同社協の講座にリモート出演した。こちらから呼びかけると手を振って応じてくれるなど、終始和やかな雰囲気でおこなわれた。

漫才のような進行で
距離を越えて盛り上がる

The 男組はプラチナ世代



自分たちが作詞作曲をしたテーマソングを披露

講演会では、平野区についての説明、The 男組の一員でもある平野区長からの挨拶に続き、The 男組の活動について具体的な報告をした。結成のきっかけとなったのは、平野区社協が主催した「男の手打ちうどん講座」。それが定例化し、月1度集まり、活動内容などを決めて

(定年退職後)の男性が中心。同じ世代の人たち同士で、地域を越えてつながり、いきいきと輝くセカンドライフを応援することを目的に夢を語り、叶えるグループとして2018年10月に誕生した。



活動の一場面(買い物袋を持って道中をサポート)

いる。オリジナルのポロシャツやテーマソングを作成するプロセスも説明した。話が脱線すると「ツッコミ」が次々入り、まるで漫才のよう。楽しい雰囲気は、福山市の方々にも伝わったろう。

また、買い物に不便な地域で野菜の移動販売が始まったが、月2回の開催のため、荷物が重くなり、困っている高齢者がいると聞いたメンバーたち。早速手伝いに行ってお客さんに喜ばれたという。そのほか、地域の

まつりで缶バッジを作成して子どもたちと交流したり、平野区民まつりからあげを販売して売り上げの一部を寄附するなど、多様な取組みを説明した。

2019年9月に開催された「いきがい・たすけあい活動サミット」のポスターセッションでは多くの人々に支持され、全国1位に入ってから新聞にも取り上げられ、「記事を読んだ知人から30年ぶりに連絡があった」と明かすメンバーがいて、大いに盛り上がった。最後は全員でテーマソングを歌唱。一体感を感じる講演となった。

気軽に話せる仲間と 新たなチャレンジを

自称CEOの森川清治郎さんは「CEOは私が勝手に名乗っているだけで、実際には役職などはなく、みんな『とんとん(平等)』。横のつながりができました」とうれしそうに語る。山村富広さんも毎日が充実しているそう。「引退したからと、引きこもってはいけません。私たちは、マスクやエコバッグの手作りなど、常に新し



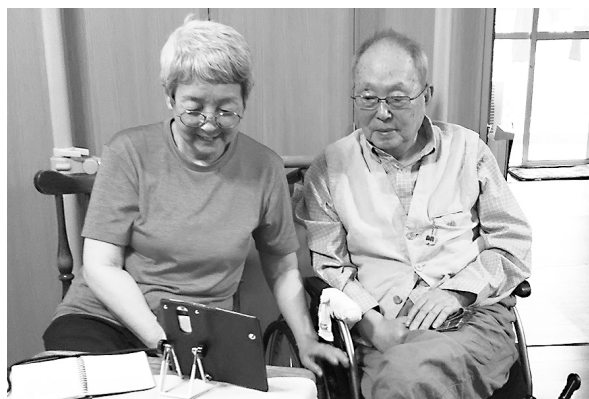
広島県福山市社協へオンラインでThe 男組の活動報告

いことに挑戦しています。年齢に関係なく、何事にもチャレンジすることが大切ですね」と話した。

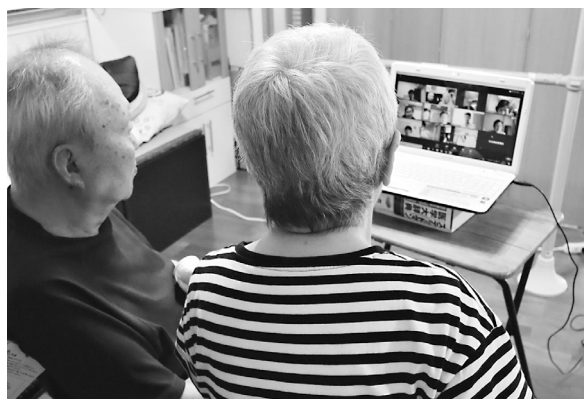
今後はボランティアや世代交流の活動に取り組みつつ、子ども向けの手打ちうどん講習会なども開催し、地域に貢献していきたいと語るメンバーたち。

平野区社協・生活支援コーディネーターの井上佳奈さんは「オンラインでも男組さんの魅力が伝わるよう、みんなで打合せや練習を重ね台本づくりをおこないました。遠く離れていても、福山市の方とは今後も意見交換ができればと思っています」と話す。

オンラインでも、こんな風につながる！ 「ウエルおおさか」に特集記事を掲載！



▲写真①都島区内のマンション「毛馬コーポ」の有志グループ「ゆうゆうクラブ在宅医療勉強会」。区社協生活支援コーディネーター、診療所の医師らが活動を支援。
*写真は「ウエルおおさか」10月号（P.2）掲載分



▲写真②此花区の特別養護老人ホーム「ラヴィータ ウーノ」では5月初旬からオンライン面会を開始。鹿兒島との生中継をスクリーンに映し、施設にいながら旅行気分を味わう取り組みも。*写真は「ウエルおおさか」10月号（P.3）掲載分

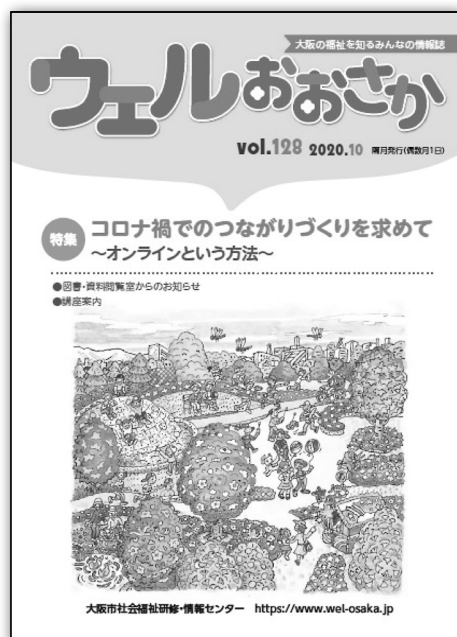
市社協が運営する大阪府社会福祉研修・情報セン

修・情報セン
る。
ま
先
大
阪
市
内
で
も
生
ま
れ
つ
つ
あ
る。

と
は
言
え
、「
地
域
活
動
や
福
祉
の
現
場
で
活
用
す
る
の
は
現
実
的
に
は
難
し
い
の
で
は
？
」
「
や
は
り
高
齢
者
に
は
な
じ
ま
い
の
で
は
？
」
「
思
い
つ
く
け
ど
、
実
際
や
る
に
は
い
ろ
い
ろ
と
大
変
！
」
と
思
う
人
も
い
る
だ
ろ
う
。
そ
ん
な
イ
メ
ー
ジ
を
覆
す
先
行
事
例
が
大
阪
市
内
で
も
生
ま
れ
つ
つ
あ
る。

新
型
コ
ロ
ナ
ウ
イ
ル
ス
感
染
症
に
よ
り
、
人
と
人
と
が
会
う
こ
と
、
集
ま
る
こ
と
が
制
限
さ
れ
る
状
況
が
続
い
て
い
る
こ
と
に
伴
い
、
オ
ン
ラ
イ
ン
会
議
ツ
ー
ル
の
活
用
が
す
ん
で
い
る
。
読
者
の
中
に
も
今
春
以
降
、
新
た
に
オ
ン
ラ
イ
ン
会
議
に
参
加
し
た
り
、
オ
ン
ラ
イ
ン
研
修
・
セ
ミ
ナ
ー
な
ど
を
受
講
し
た
人
も
い
る
こ
と
だ
ろ
う
。
こ
れ
ら
の
手
法
は
、
感
染
予
防
が
徹
底
で
き
る
ほ
か
、
距
離
や
会
場
の
制
約
を
超
え
て
つ
な
が
れ
る
、
多
く
の
人
数
で
一
斉
に
情
報
共
有
で
き
る
、
ツ
ー
ル
の
活
用
次
第
で
は
録
画
や
チャット（文字によるメッセージのやりとり）により記録を残しやすいついたメリットがある。

と
は
言
え
、「
地
域
活
動
や
福
祉
の
現
場
で
活
用
す
る
の
は
現
実
的
に
は
難
し
い
の
で
は
？
」
「
や
は
り
高
齢
者
に
は
な
じ
ま
い
の
で
は
？
」
「
思
い
つ
く
け
ど
、
実
際
や
る
に
は
い
ろ
い
ろ
と
大
変
！
」
と
思
う
人
も
い
る
だ
ろ
う
。
そ
ん
な
イ
メ
ー
ジ
を
覆
す
先
行
事
例
が
大
阪
市
内
で
も
生
ま
れ
つ
つ
あ
る。



詳細は「ウエルおおさか」誌面をご覧ください。

※大阪府社会福祉研修・情報センターHP（PC版）からは、
トップ画面右側の表紙画像をクリック

<https://www.wel-osaka.jp/index.php>

と
は
言
え
、「
地
域
活
動
や
福
祉
の
現
場
で
活
用
す
る
の
は
現
実
的
に
は
難
し
い
の
で
は
？
」
「
や
は
り
高
齢
者
に
は
な
じ
ま
い
の
で
は
？
」
「
思
い
つ
く
け
ど
、
実
際
や
る
に
は
い
ろ
い
ろ
と
大
変
！
」
と
思
う
人
も
い
る
だ
ろ
う
。
そ
ん
な
イ
メ
ー
ジ
を
覆
す
先
行
事
例
が
大
阪
市
内
で
も
生
ま
れ
つ
つ
あ
る。

と
は
言
え
、「
地
域
活
動
や
福
祉
の
現
場
で
活
用
す
る
の
は
現
実
的
に
は
難
し
い
の
で
は
？
」
「
や
は
り
高
齢
者
に
は
な
じ
ま
い
の
で
は
？
」
「
思
い
つ
く
け
ど
、
実
際
や
る
に
は
い
ろ
い
ろ
と
大
変
！
」
と
思
う
人
も
い
る
だ
ろ
う
。
そ
ん
な
イ
メ
ー
ジ
を
覆
す
先
行
事
例
が
大
阪
市
内
で
も
生
ま
れ
つ
つ
あ
る。

と
は
言
え
、「
地
域
活
動
や
福
祉
の
現
場
で
活
用
す
る
の
は
現
実
的
に
は
難
し
い
の
で
は
？
」
「
や
は
り
高
齢
者
に
は
な
じ
ま
い
の
で
は
？
」
「
思
い
つ
く
け
ど
、
実
際
や
る
に
は
い
ろ
い
ろ
と
大
変
！
」
と
思
う
人
も
い
る
だ
ろ
う
。
そ
ん
な
イ
メ
ー
ジ
を
覆
す
先
行
事
例
が
大
阪
市
内
で
も
生
ま
れ
つ
つ
あ
る。



旭 区 マタニティカフェ・ママからの発信 「子育てはお腹の中から」本を発刊！

ママたちが安心して
過ごせる居場所

旭区清水にある町家カフェ&サロン・ギャラリー「ゆるり」にて、毎月第3木曜日にマタニティカフェ（特定非営利活動法人町家クラブゆり、旭区社会福祉協議会、旭区子ども・子育てプラザの3者共催）を開催している。

また、乳児たちは奥の部屋で、子育て経験豊富なボランティアが終了時間まで見守っている。泣き止まない赤ちゃんには、音楽を聞かせたり、あやしたり工夫しながら対応している。

報を交換したり、マタニティ&子育て中の方々とドクターがカフェインレスのコーヒーや紅茶を飲み、おしゃべりするなど楽しい時間を過ごしている。

その間、参加者のママたちは、自分の子を気にかけてながらも、育児から解放され、ゆったりとした時間を過ごすことができる。



ドクターとママたちのお話会の様子

特定非営利活動法人町家クラブゆりの柴野奈津子さんは、「赤ちゃんが気になる気持ちから、保育園に通ったり離れて過ごす時間まででくる。その時の練習と想ったらいいよ」とママたちに語り



経験豊富なボランティアが赤ちゃんを見守る

かける。お話し会は、旭区にある中野こども病院の木野稔理事長にご協力いただき開催しており、病気や食事などさまざまな質問に対してアドバイスをいただいている。

そして、お話し会が終わると、メッセージカード作りを開始。ママたちは、赤ちゃんのことを思いながら、可愛いカードが毎月作成される。「子育てに悩んだ時、このカードを見て自分がその時々で感じたことを振り返って気持ちを落ち着かせたり、生まれてくる子どもに『パパやママはこんな気持ちだったんだよ』と伝えることもできる」と柴野さんはカードに込めた思いを話す。

コロナ禍で、マタニティカフェを休まざるを得ない時もあったが、感染対策をしながら活動を再開した時には「待てました！」とばかりに多くのママたちが集まるなど、顔の見えるつながりがあり、居心地のよい場所となっている。

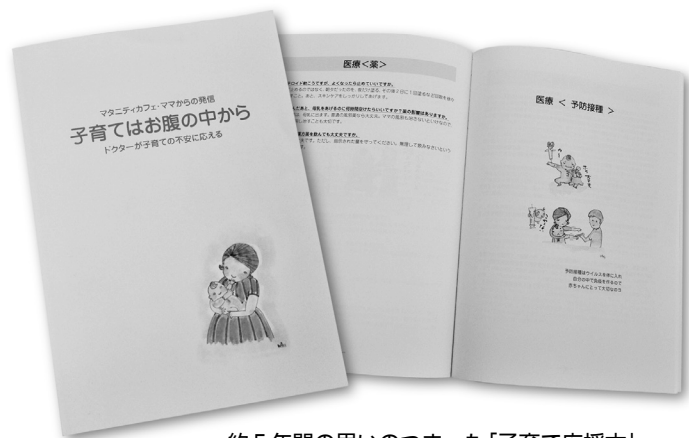
子育ては一人ではない

当初から、柴野さんが思い描いていた「お話し会の様子を本にしたい」との熱い思いがこのたび形になり、令和2年5月に「子育てはお腹の中から」を発刊。約5年間のお話し会での様子がまとめられた。子育てイラストにほっこりし、ママたちの子育ての不安などの声にドクターが丁寧に答え、乳幼児の病気や食事、生活など、カテゴリー別に分かれた見やすい内容となっている。

柴野さんは、「子育ては一人ではない」、マタニティカフェで、不安だった気持ちが言葉を交

わし一緒に穏やかな時間を過ごすことで、温かい人と人のつながりが生まれる。『子育てはお腹の中から』穏やかに育んでほしい、子育て中の方へ何か不安に思ったときにでも安心して読める『子育ての応援本』としての思いを語られた。

編集作業に関わった区社協・地域支援担当の岸本あおいさんは「マタニティカフェに携わる方たちの、『少しでも子育ての力になりたい』という気持ちが込められた素敵な本です。より多くの方たちの力になれば嬉しいです」と話した。



約5年間の思いのつまった「子育て応援本」

計画評価と情勢変化を踏まえて

「次期計画」策定へ

市社協は8月28日、大阪市立社会福祉センターで「第41回大阪市地域福祉活動推進委員会」を開催した。

平成30年度から推進している「大阪市地域福祉活動推進計画」は、計画期間（3年間）の最終年度を迎えた。今年度は、3年間の評価の総括と、次期計画の策定に並行して取り組んでいる。次期計画について、現時点での案では、令和3～5年度の3

年計画を予定。さまざまな民間の活動主体による「地域福祉活動の方針・目標」を提案するとともに、その活動を推進するため、「各区社協が実践する具体的項目」を新設。これにより、区の特性を踏まえながらも、全区社協が共通して重きを置く内容を明確にする。そして「市社協として実践する具体的項目」として、広域的な取り組みや区社協支援を位置づける、という構成を予定している。

成を予定している。

今回は「地域福祉活動の方針・目標」にあたる部分から検討を開始した。事務局からは、現行計画の3つの重点目標（①担い手②居場所③見守り）のふりかえりや、国の地域共生社会推進検討会が示す内容などを踏まえた検討資料を提示。

委員からは「3年計画であっても、10年後の姿をイメージして議論を」「新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、生活に困窮する層が広がることを見据えた相談支援のあり方」など



今年度から新たな任期（2年間）を迎え、全14人の委員が出席

の意見があがった。

今回の議論をもとに、今後は社協職員と学識経験者で構成する策定会議や、各区社協からの意見照会を経て、今後の委員会（11月、2月）で引き続き検討する。

また、毎年度新たなテーマで作成している「参画と協働のための地域福祉ガイドブック」は、第6弾として（仮称）「コロナでどうする？居場所・サロン活動」の発行を予定している。

風をよむ

「デジタル化」と「対面原則」

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 教授 所道彦

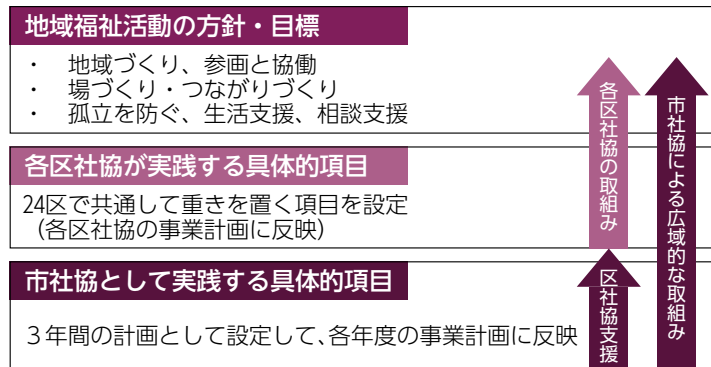
近年、医療や福祉の領域でデジタル化が提唱されている。医療保険診療時の「オンライン資格確認システム」などが先行しており、医療情報の共有、電子処方箋、自身の保健医療情報の活用などが進められている。生活保護の医療扶助についてオンライン資格確認導入に向けた検討もはじまった。全世代型社会保障検討会議第2次中間報告（6月）では、「テクノロジーやデータを活用し、介護職員がケア業務に専念できる環境を整備する」とされている。

本来的見直しを求め、「場」とらわれない診療（オンライン診療）の拡大などを提唱している。

実際に、デジタル化がサービスを効率化し、人手不足を補い、現場の負担を軽減するかは未知数だ。システム導入の初期費用、導入時の現場の負担、個人情報保護やIT弱者のことも考慮されなければならぬ。

そしてこういった動きは、サービスの質の向上や現場の負担の軽減にとどまらず、さなる人員削減にもつながっていく可能性もある。効率を重視し、「場」とらわれないサービスが拡大するのであれば、「地域」という場の位置づけも問われることになる。

それでも、コロナ禍の中で、「デジタル化」「非対面化」の流れは加速しそうだ。社会全体の大きな変化を踏まえて、福祉サービスの将来像を議論することが求められている。

次期 大阪市地域福祉活動推進計画について
(イメージ図)

※推進委員会配付資料をもとに一部簡略化

こんなこと 私たちの施設から 33 やってます!

社会福祉法人 優心会 特別養護老人ホーム こうのとりの

すべての人が「あふれる笑顔」になぁ～れ

「大空を羽ばたく“こうのとりの”のように、たくさんの人の幸せな気持ちを運びたい。お互いを想い合う“優しい心”をいつまでも大切にしたい」そんな想いを込めて2013年4月、大阪市平野区にユニット型の特別養護老人ホームこうのとりを開設しました。

施設名の「こうのとりの」は、「幸の鳥」とも置き換えることができます。入居者様はもちろん、入居者様のご家族、職員や職員のご家族、地域の方々などこうのとりに関わるすべての方の幸せを実現するために私たちは存在しています。

開設から7年間の取組みは、すべてにおいて入居者様目線のユニットケアを追求し、妥協することなく入居者様へのご支援をおこなっています。

また、地域にも解放したイベントをおこない、まだ

まだ新しい法人ですが、地域に根付いた関わりを今後も継続していきます。

そして、もう一つ大事なことは、サービスを提供する職員の質の向上です。“人”がいなければ、そもそも入居者様にサービスを提供することができません。私たちは、積極的に職員の採用と育成をおこなっています。

「サービスを提供する職員」、「徹底した入居者様目線のご支援」、「地域を巻き込んだ社会資源の解放」、これらはすべてが独立したものではなく、相互に関わりあったものでなければなりません。どれかに偏った視点になると、バランスが崩れてしまいます。

優心会は、それらを主導する人材が、自身の役割のもと、主体的に動き、新しい法人だからこそ「追いつけ追い越せ」でどこにも負けないような“おもしろい取組み”を実現しています。

すべての人に、「優心会は、おもしろい法人」と思われることに喜びを感じ、その先にある最高のサービスを日々ご提供できることが、私たちのやりがいでもあります。



特別養護老人ホーム こうのとりの

住所: 〒547-0014 大阪市平野区長吉川辺3-2-3
TEL: 06-6700-8000 FAX: 06-6700-8400
URL: <http://yuushinkai.or.jp>



令和2年度(第74回) 共同募金運動はじまる

今年も10月1日から、全国一斉に、共同募金運動が実施されます。

共同募金会ではこの間、「赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」を実施し支援してまいりました。

本年は、新型コロナウイルス

イルス感染拡大により、人と人が距離をとり、つながることが難しい状況ですが、このような時こそ「つながりをたやさない社会づくり」が大切であり、互いに助け合う共同募金の役割が重要と考えます。

今年の募金目標額は歳末たすけあいを含めて、8億5千万円。府内の市区町村社会福祉協議会を通しておこなわれる、住民のみなさまの身近な地域福祉事業や、社会福祉施設の整備、社会福祉団体・ボランティア団体等の活動支援などコロナ感染下でもおこなわれる、さまざまな福祉事業を支える大切な資金となります。

共同募金は、誰もが参加できるボランティア活動です。いつでもどこでも身近に取り組めるボランティア活動として、この



ような時こそ、是非とも多くのみなさまのご参加ご協力を今年もよろしく願っています。
(大阪府共同募金会)

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 火災の保険 がんの保険

www.ms-ins.com